

令和7年度 学校評価書(共通) 後期

校名 宇和島市立下灘小学校

1 自己評価書

教育目標	人・自然とつながり、自分で考え判断し、たくましく生きる児童の育成						
基本方針	身近な人や自然と主体的に関わり自分にできることを考え実践する児童を育てる。 合言葉 いい声・いい汗・いい笑顔						
本年度重点目標	①確かな学力を育てる教育の推進②豊かな心を育てる教育の推進③健やかな体を育てる教育の推進④安全・安心で充実した教育環境の整備⑤特別支援教育の充実⑥教職員の資質・能力の向上と組織の活性化						
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価		
確かな学力の定着と向上	①	全国学力・学習状況調査及び市標準学力調査の活用	各調査の分析結果を基に、「身に付けさせたい力(学習の目標)」の明確化を図り、組織的に推進することができた。	・分析資料の作成	A	A	
				・具体的な対策の実施	A		
	②	授業改善	主体的・対話的で深い学びの実現に向け、授業モデル「N見方・考え方を考える」を視点に授業改善に努めた。	・教師アンケート	A	A	
				・保護者アンケート	A		
			ねらいを明確にした分かる授業を行った。	・児童生徒アンケート	A	A	
				・教師アンケート	A		
			一人1台端末(iPad)やEILS(コンテンツバンク等)の活用により、個別最適な学びを推進したり学習内容の定着を図ったりした。	・児童生徒アンケート	A	A	
				・教師アンケート	A		
	③	家庭学習の充実	家庭との協働により、授業と連動させた家庭学習の充実に努めた。	・教師アンケート	A	A	
				・保護者アンケート	B		
				・児童生徒アンケート	A		
	④	読書活動の充実	読書に対する関心や意欲が高まるような取組や声掛けを積極的に行った。	・教師アンケート	A	A	
				・保護者アンケート	B		
				・児童生徒アンケート	A		
	⑤	ふるさと学習及びESDの推進	社会や地域の課題解決や活性化に向けた活動及び調べ学習等を通して、地域に対する誇り・愛着の醸成や、持続可能な社会を創造しようとする児童生徒の育成に努めた。	・教師アンケート	A	A	
				・保護者アンケート	A		
				・児童生徒アンケート	A		
・児童生徒アンケート				A			
(成果と課題)							
各調査の分析結果を基に、校内研修で話し合い、授業改善することができた。全教員で本校児童の苦手な領域を確認し合い、対策を話し合うことができた。その結果、授業改善が進んでいる。ICTを授業だけでなく、家庭学習でも活用することができた。読書活動の充実に取り組んだが、個人差が大きい。児童の読書への取組の二極化が顕著になった。							
(改善策等)							
一人1台端末をこれまで以上に有効活用できる事例を共有し、学習内容の定着に生かす。 親子読書の期間を設け、家庭での読書活動も推進し、保護者の読書に対する意識を高める啓発活動を続ける。							
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価		
生徒指導の充実	①	規範意識の向上	規範意識を高めるための共通理解、共通実践に努め、児童生徒の行動規範が高まってきた。	・教師アンケート	A	A	
				・保護者アンケート	A		
				・児童生徒アンケート	A		
	②	児童生徒の健全育成	児童生徒に寄り添った対応を行うとともに、児童生徒同士の人間関係づくりや仲間意識に支えられた集団づくりの推進に努めた。	・教師アンケート	A	A	
				・保護者アンケート	A		
				・児童生徒アンケート	A		
			不登校の未然防止や状況改善に向けて、校内体制の整備と早期対応に努め、チームとして取り組んだ。	・教師アンケート	A	A	
				・保護者アンケート	A		
				・児童生徒アンケート	A		
	③	関係機関との連携	いじめの未然防止、早期発見に努めるとともに、迅速且つ適切な初期対応や組織的な対応等により、いじめの早期解決に努めた。	・教師アンケート	A	A	
				・保護者アンケート	A		
				・児童生徒アンケート	A		
			スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、こども支援教室わかたけ等の積極的な活用を心掛けた。	・教師アンケート	A	A	
				・保護者アンケート	A		
				・児童生徒アンケート	A		
	④	自己肯定感 等	自己肯定感を涵養する取組の工夫・改善を具体的にに行った(自分にはいいところがある)。	・教師アンケート	A	A	
				・児童アンケート	A		
			自己有用感(人の役に立っている)や達成感を醸成する取組により、子どもの意識に変化が見られた。	・教師アンケート	A		
・児童アンケート				A			
(成果と課題)							
児童の自己肯定感が高い。生徒指導の諸課題について全職員で共通理解を図り、早期発見・早期解決をすることができた。児童の自己肯定感と自己有用感が昨年度より上がっている。							
(改善策等)							
今後も報・連・相を大切に、早期発見・早期対応をしていくと同時に、発達支持的な生徒指導を行い、自己肯定感や自己有用感をより一層育んでいきたい。児童が自己有用感を実感できるような活動を増やすと同時に、声掛けをしたり、自己評価の機会を設けたりする。							

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満

評価項目	評価小項目		評価の観点	評価資料	評価	評価
働き方改革	①	ワーク・ライフ・バランス	時間外勤務が月80時間を超える教職員ゼロを目指し、校内で設定した業務改善施策を基に、組織的な働き方改革に努めた。	・教師アンケート	D	C
				・「出勤・退庁調査」の分析と活用	B	
	②	働きやすい環境づくり	「何でも相談し合える雰囲気づくり」「経験の浅い教職員を皆で支える雰囲気づくり」など、温かく働きやすい職場づくりに努めた。（枠を移動しました。）	・教師アンケート	A	A
				休業日の設定を含めた計画的な課外活動や部活動等の適切な運営がなされた。	・教師アンケート	A
	③	他の教職員のサポート体制の充実	教職員同士が仕事を手助けしたり、スクールサポートスタッフ、地域人材などを積極的に活用したりして、職場の仕事のサポート体制が充実した。	・教師アンケート	A	A
	（成果と課題） ワークライフバランスが課題である。時間外勤務については前期よりは改善が見られた。職員数が少ないので一人当たりの校務分掌が多く、業務の量が多いと感じている職員がいる。テレワークを使って業務をしている職員も多い。働きやすさやサポート体制の充実についてはよい評価となった。 （改善策等） 今後も風通しのよい職場づくりに努める。課題や問題に対して、チーム学校で対応していく。会議や研修について、資料を事前に配付したり、軽重を付けて話し合いを行ったりすることで、タイムパフォーマンスを上げる。今後も、相談しやすい雰囲気をつくり、特定の職員に業務が偏ったり、一人で業務を抱え込んだりすることがないようにお互いに気を付ける。職員室で声を掛け合うことで児童について情報交換をしたり、共通理解を図ったりすることで、業務の質を上げ、負担を減らすような体制づくりをしていく。					
評価項目	評価小項目		評価の観点	評価資料	評価	評価
地域との連携	①	学校運営協議会の活性化	全教職員に対して、学校運営協議会の役割・目的の周知徹底に努めた（校内体制）。	・教師アンケート	A	A
			学校運営協議会・地域学校協働活動の活性化（地域・保護者へ）を図り、熟議等の結果を基に、地域の力を学校運営に生かすよう努めた。	・教師アンケート	A	
				・保護者アンケート	A	
				・地域アンケート	A	
	②	情報発信	家庭や地域に対して、教育活動に関する情報を、文書やホームページ等で積極的に発信した。	・教師アンケート	A	A
				・保護者アンケート	A	
				・地域アンケート	A	
	③	来校・相談体制	来客・電話対応を丁寧に行い、保護者や地域の方々の声をしっかりと聞くことで、来校しやすく、相談しやすい体制・雰囲気づくりに努めた。	・教師アンケート	A	A
				・保護者アンケート	A	
				・地域アンケート	A	
（成果と課題） 家庭・地域との連携がうまくいっている。自由記述でも学校の情報発信や早期対応、連携・協働について高評価のコメントが多数あった。学級担任による相談対応や、ホームページによる発信についての評価も高い。一方、保護者から学校行事の内容や放課後体育の練習をこれまでと変えたことについて疑問を呈する意見もあった。 （改善策等） 保護者からの改善希望については早期に検討・対応し、家庭・地域にも改善した内容を周知する。今後も情報発信や相互の連絡を通して連携・協働を進め、よりよい学校運営を進めていく。保護者や地域の方々の相談や意見を傾聴しながらも、児童や教職員の負担軽減を考え、理解を得られるように努める。						

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満